

原因は全く不明

水俣の奇病

厚生省の現地調査終る

水俣奇病の調査に来航中の厚生省の佐藤、岡崎両技官は現地調査を終る。十三日午前十時半から県衛生研究所で県大医学部、県衛生部など関係者を集めて秘密打ち合せを開いた。

会場には県側から藤田衛生部長、守任公衆衛生課長、熊大側から尾崎医学部長、大反田、喜多村、武内の各教授らが出席、熊大側からこれまでの研究経過を報告した。今後の対策を協議したが、佐藤、岡崎両技官は会議終了後、奇病中の奇病で、原因など全く分らぬ。と次のように語った。

今回の調査の目的は発生地の環境や家族の状況をみることにしたが、患者はもろろん住居や漁

港、工場なども全部見せてもらったが、想像していた以上に悲惨な病氣だ。治療法も全くないという印象を受けたが、予防法として現地では従来どおりの酒内の魚介類は食べないほうがよいだろう。現にイリコを食べたネコがいまでも死んでいる。原因についてはマンガン酸があるが現在のところ全くわかっていない。他に類のない不思議な病氣だ。今後の対策としては原因の追及と患者の援護があるが、原因の方は地元を中心に中央の方で手伝う形でやりたい。研究費については足りない分を全面的にカバーするほか患者の援護にも万全を期する考えで、場合によつては追加の費を要求するかも知れない。

よつては追加の費を要求するかも知れない。